

<プロローグ>

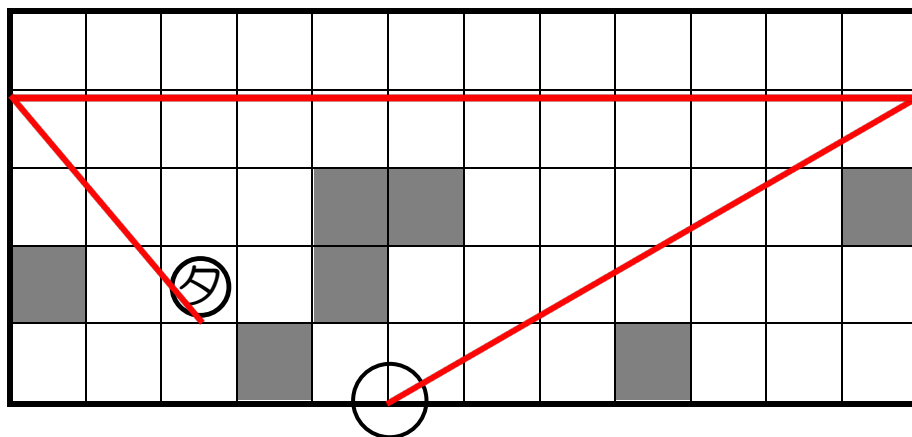
この街には、正義のヒーローはいない。
 空を飛ばやつも、変身するやつも、誰もいない。
 ただ——「角度」を直す男がひとりいる。
 名はブノード・キスタ。狙撃の腕は一級品。
 けれど、彼の弾丸は誰も傷つけない。彼の相棒は
 六体の小さなスタンド、ラビット・ピストルズ。
 ニンジン型の弾丸に宿る彼らは、
 悪人の“心の角度”を測り、修正するために生まれた。



街のどこかで、また誰かが道を外す。だが、キスタに
 にとってそれは悪ではない。“少しだけズレた角度”。

ただそれだけの話だ。

「俺の仕事は簡単だ。狙うのは、悪じゃねえ。心の角度だ。」ニンジン弾が放たれる
 たび、ひとりの悪人が、奇妙な善人へと変わっていく。それが、
 『ブノード・キスタの奇妙な射角』。——今日もまた、照準は静かに定まる。



- …スタート
(円の中心の交点)
- ⊗…ターゲット
- …障害物

れい だんがん

例…弾丸：①30° , ③40° , ②90°

自分の位置の左右を0°とし、それに対して、弾丸の角度で線を引きます。

壁に当たった場合はそこで止まり、

壁を0°とし、新しい弾丸の角度で線を引きます。

弾丸を全て使い切り、ちょうどターゲットを通過することができればクリアです。

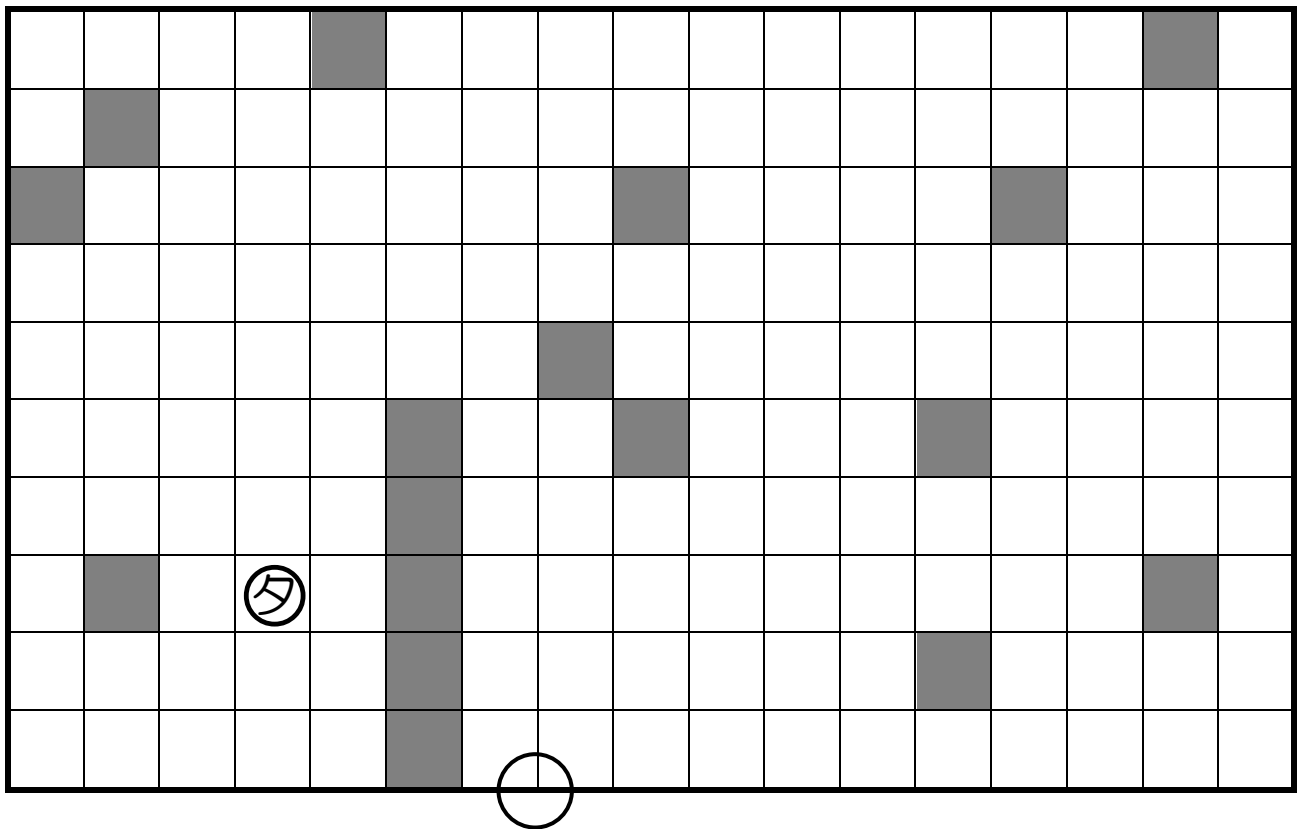
障害物に当たってはけません。

<EP1：食べきるより早く、袋を投げ捨てる天才>

公園のベンチで、少年がチップスを頬ばっていた。風が吹くたび、袋が一枚、また一枚と宙を舞う。「どうせ誰かが拾うって。」小さく笑って、次のスナックを開ける。

俺はスコープ越しに、その笑顔を見た。悪気なんてねえ。だが、それが一番たちが悪い。この街の空気より軽い、責任感。…

心の角度がズレてるな。俺が測り直してやる。



弾丸：20°，30°，40°，50°



数か月後。

「ゴミ博士」の噂が、街中に広がった。

ゴミを自動で集める“ゴミ追尾ロボット”を発明した少年。その名はジロウ。

かつて投げ捨てた袋を、今は自分で拾い上げている。

笑顔も、あの時と同じ。

ただ一向いている角度が、ちょっと違うだけだ。

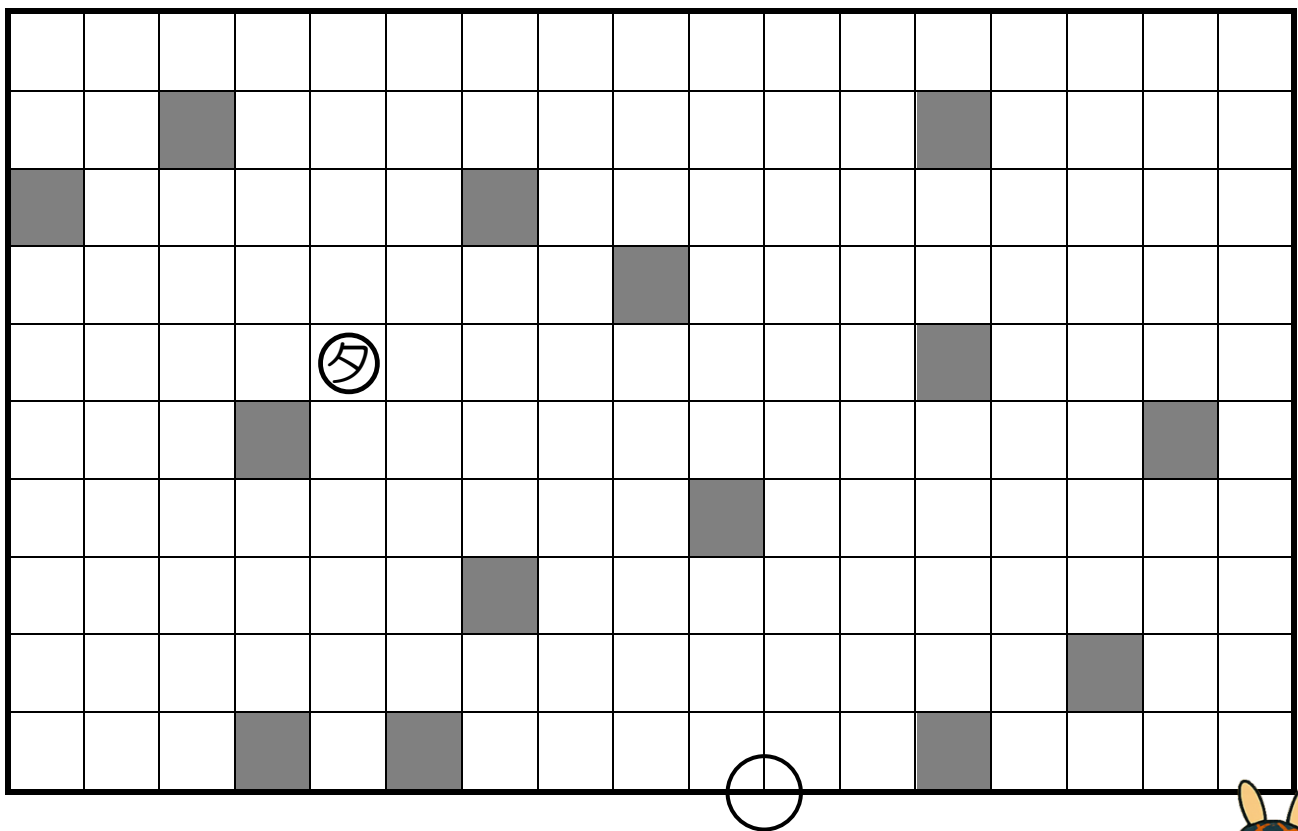


<EP2： 宿題をやらずに寝るスピード、秒速3秒>

机の上に広げたノート。その上に顔を埋めて寝息を立てる少女、ミュ。ページは真っ白。鉛筆は転がったまま。「明日やるってば。」その言葉はもう三日連続。

俺は屋根の上でスコープを構えた。宿題をサボる勇気があるなら、未来を描く勇気もあるはずだ。…

心の角度がズれてるな。俺が測り直してやる。



弾丸：30°，50°，70°，90°



数週間後。

ミュは“宿題アプリ開発者”として話題になっていた。ゲームのように問題を解くたび、画面に花が咲く。全国の子どもたちが「勉強って楽しい」と言いはじめた。かつて逃げたノート。

今は、彼女自身がそのページを動かしている。努力の角度、完全補正済みだ。

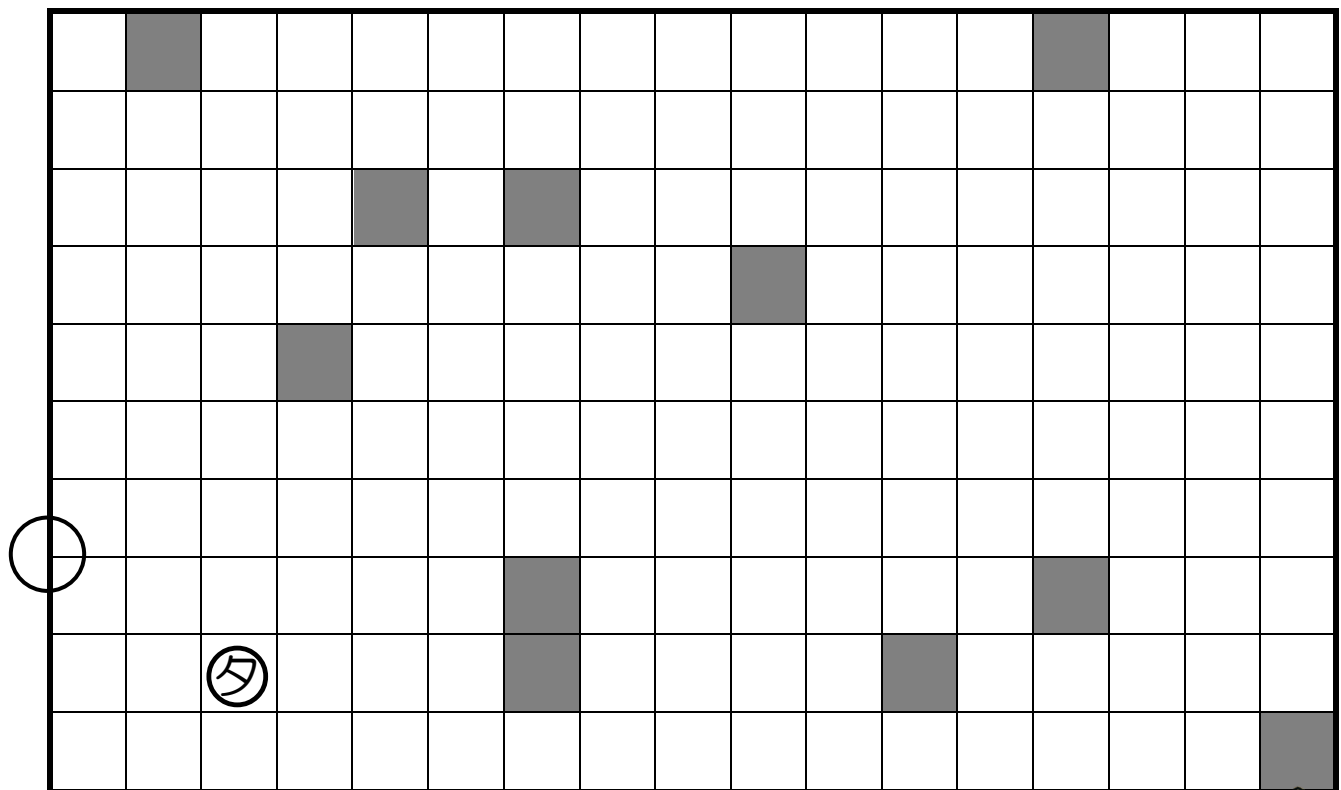


<EP3： 赤信号？ 俺には見えてねえ>

こうさてん ま なか おとこ はし あかしんごう くるま
交差点の真ん中を、男が走る。赤信号。車が
クラクションを鳴らす。それでもシンは止まらない。
「急いでるわけじゃない。ただ止まりたくねえんだ。」
その言葉に、信号も呆れて点滅した。

おれ かげ かま いきお
俺はビルの影からスコープを構える。勢いはある。
だが、方向が悪い。…

こころ かくど おれ はか なお
心の角度がズれてるな。俺が測り直してやる。



だん
弾丸：30°，40°，70°，80°

すう げつご そら と
数か月後。シンは空を飛んでいた。
しんごう じゅうたい かんけい くうちゅうほこう
信号も渋滞も関係ない、“空中歩行マシン”の
はつめいしゃ そら み お まち あか あお
発明者として。空から見下ろす街は、赤も青も
かんけい うつく いま かれ と りゆう
関係なく美しかった。今の彼に、止まる理由はない。
だが、誰も迷惑しない。
かくど ただ すす つづ
角度さえ正しければ、進み続けていいのさ。

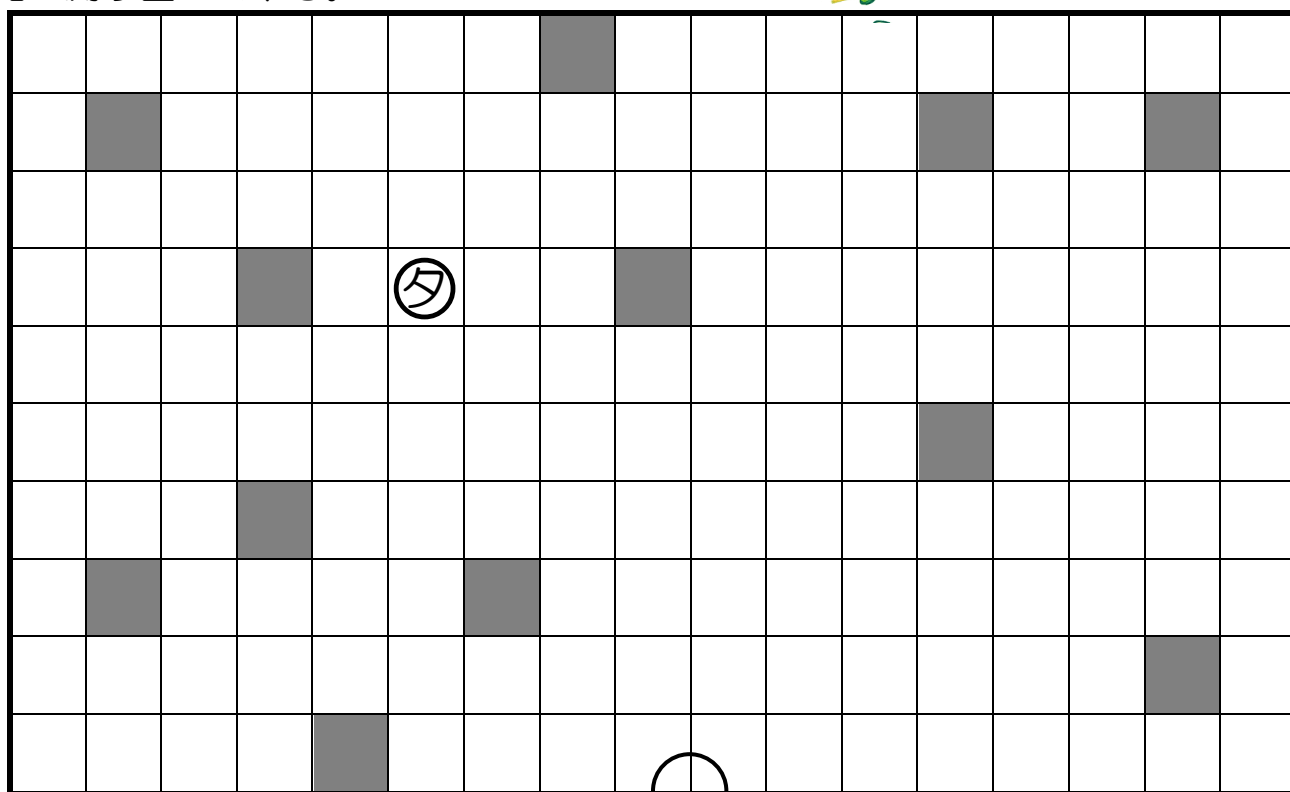


<EP4： 夜の街に名前を刻むアーティスト(自称)>

深夜の路地裏。シャッターにスプレーを吹きかける音が響く。“RICK”一太字のサイン。それがリクの作品であり、罪でもあった。「消されるのも芸術の一部だろ？」得意げに笑うその顔に、街灯の明かりが落書きのように揺れていた。



俺は屋上の影で、缶の音を聞いていた。線は悪くねえ。だが、描く場所がな…心の角度がズレてるな。俺が測り直してやる。



弾丸：40°，50°，70°，80°，90°

数か月後。

リクの絵が、空に浮かんた。巨大なドローンを使い、雲に色をつける“空描きアート”。

街じゅうの人が空を見上げて笑っていた

もう誰も彼の絵を消さない。

なぜなら、空に描かれたものを消せるやつなんていないからだ。

角度を変えたら、罪も芸術に変わるんだ。



<EP5： 沸騰0.3秒、常時フルスチーム>

ひるさ
昼下がりのカフェ。

カップが一つ割れた瞬間、怒号が飛ぶ。

「何度言わせんだッ！ミルクは“後”だろうがッ！！」

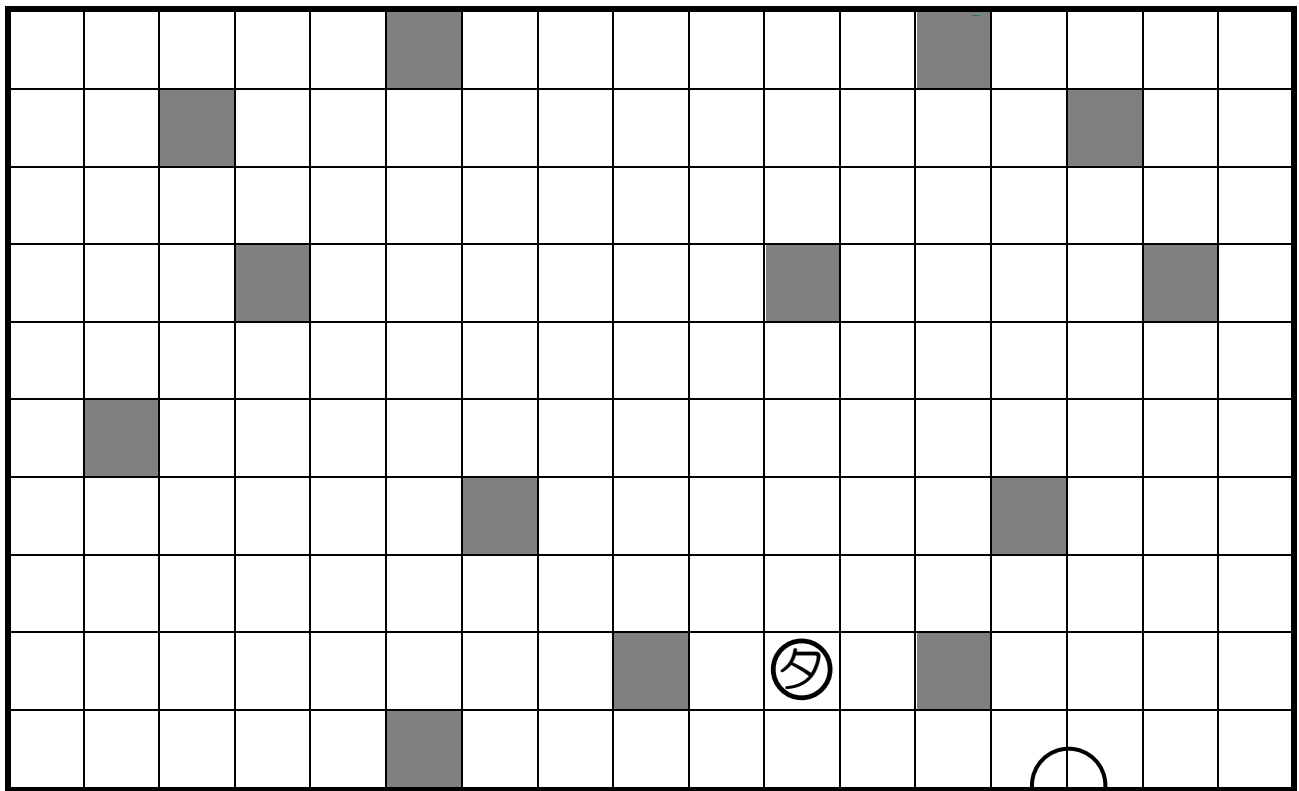
客も店員も、みんな固まる。怒鳴って、叩いて、最後は自分でテーブルを磨く。完璧主義。それが彼の呪い。



俺は店の外の路地から、その光景を覗いた。熱いのは悪

くねえ。けど、方向が悪い。…心の角度がズれてる

な。俺が測り直してやる。



弾丸：30°，40°，50°，60°，70°

数か月後。

“整いの達人”として評判のサウナ屋ができた。

店主の名は、ゴロー。熱波師として、客を怒鳴る代わ

りに熱で包み込む。「心が煮える前に、汗で流せ」—

それが彼の口癖。怒りは消えていない。

ただ、角度が変わっただけ。

今ではその熱が、人を癒やしている。



<エピソード>

ゆうや まち み おくじょう かぜ みみ ゆ
夕焼けの街を見下ろす屋上。風が耳を揺らす。ラビット・ピストルズたちは、
ひ ひかり はんしゃ ちゅう ただよ
陽の光を反射してゆらゆらと宙に漂っていた。

ジロウも、ミユも、シンも、リクも、ゴローも。みんな、どこかで笑って
いるだろう。あの歪んだ角度を、ちょっと測り直ただけで。

キスタはサングラスを持ち上げて、沈む太陽をひと目、確かめた。

「……人の心じゃ、まっすぐな角度なんてねえ。だから面白えんだよ。」

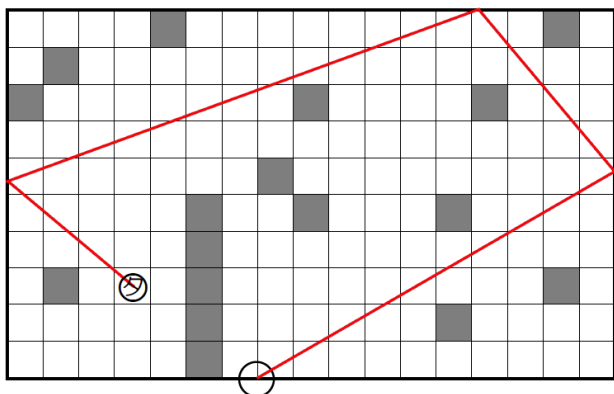
ピストルズたちが笑い声のように光を弾ませる。そしてキスタは、静かに
せ む ゆうひ しず まち かぜ のこ
背を向けた。夕日が沈む街に、ひとすじの風が残る。

だんがん とお あと うつく おうごん かぜ
弾丸が通った跡のように、まっすぐで美しい、黄金の風が。



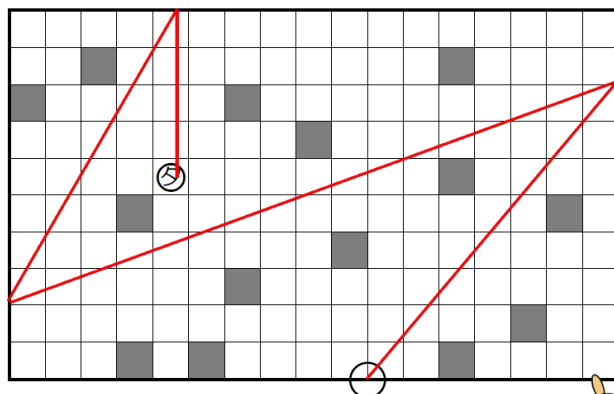
きみよう しゃかく だい ぶ かいとう
 <ブノード・キスタの奇妙な射角 第1部 解答>

EP 1



弾丸: ③20°, ①30°, ②40°, ④50°

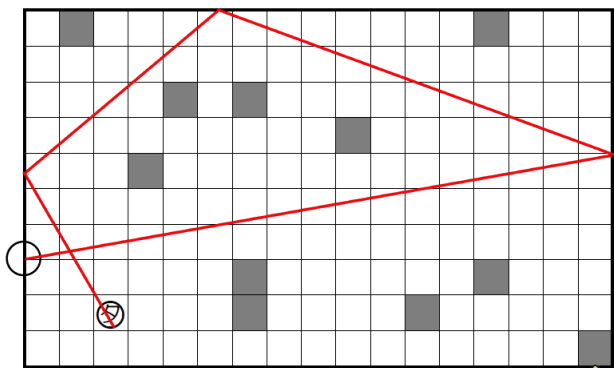
EP 2



弾丸: ③30°, ①50°, ②70°, ④90°



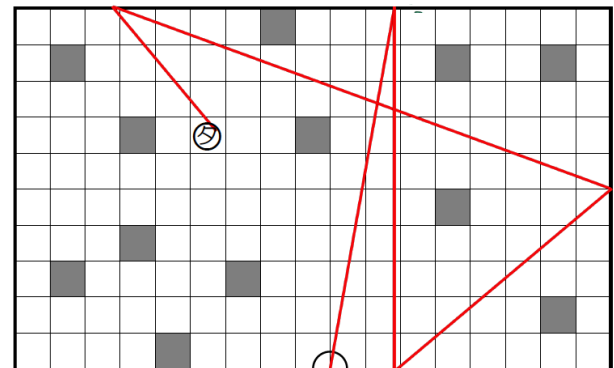
EP 3



弾丸: ④30°, ③40°, ②70°, ①80°

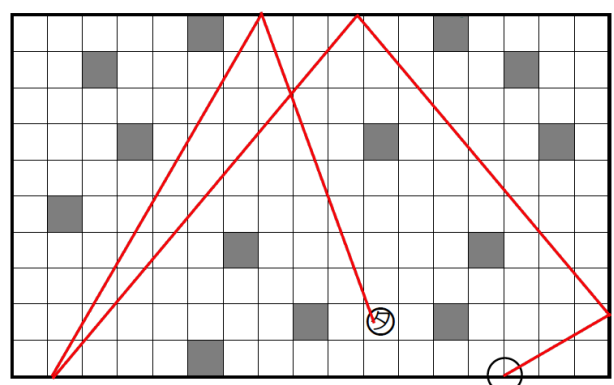


EP 4



弾丸: ③40°, ⑤50°, ④70°, ①80°, ②90°

EP 5



弾丸: ①30°, ②40°, ③50°, ④60°, ⑤70°